

受験奮闘記～桜修館中等教育学校～立教大学観光学部③

「ボクが学んだこと③ ひたすら解く！かつやる気！」 T. SUZUKI

都立中高一貫校の受験スタイルと対策

受験体験記も3回目を迎えました。まだ中学受験の段階でこんなに回を重ねていて、大学受験まで完結するのに一体どれだけ時間がかかるのでしょうか？ともかく、今回は宣言通り都立中高一貫校の独特な受験スタイルと大まかな対策(?)を述べたいと思います。

都立中高一貫校の入学試験は「適性検査」と呼ばれるもので行われます。読んで字のごとく、「うちの学校に適している人間」かどうかを検査する試験です。この適性検査ですが、一般的に目にする中学受験の試験とはスタイルが大きく異なります。一般的な入試問題といえば、算数の捻った文章問題とか、長い随筆や小説を読んで筆者が言いたいことや登場人物の心情などを問われる問題が出題され、そのほとんどがマークシート式・・・なのでしょうか？私立校を受けたことがないので分かりません。しかし、適性検査は違います。そもそも教科で分けることはしません。

適性検査は、一般的に適性検査Ⅰと適性検査Ⅱに分かれています。学校によってはⅢもあるのですが、多くの学校は2つに分けています。試験時間はそれぞれ45分、45分×2=90分で行われます。Ⅰはいわゆる国語。長文や複数の文章を読んで筆者の主張または複数の文章に共通するor違う点を説明し、さらにそれに対する自分の考えを大体300～400字で説明します。そう、Ⅰは「作文」なのです。この時点で一般的な受験とは大きく異なります。読解力だけではなく、自分の意見を考える力とそれを文章化する力、総合的な国語力が問われます。そしてⅡですが、これは算数、理科、社会の総合問題です。問題形式は例年大問1が算数、2が社会、3が理科系といった感じです。Ⅰが作文であったように、Ⅱも論述で答えていくスタイルです。例えば大問2に年を隔てた「農作物の生産量のデータ」があったとします。そして「それぞれの農作物の生産量はこの年とこの年とどのように変化したのでしょうか」と問われます。そうしたら受験生は「○○は何倍に増加して△△は何%減少して・・・」というようにそれぞれの農作物の増減を「詳しく」説明していく必要があります。ただ減った・増えただけでは不合格、さよならです。定量的にどう変化したのかを説明するためにちまちま計算して何%減ったか増えたかを求めていくのです。社会系の問題といえども、素早く正確な計算能力と分析力が試されます。

どうでしょう？大体のイメージを掴んでいただけたでしょうか。適性検査は何よりも「分析力(読解力)」と「文章力」が問われます。問題文を読んでなんとなく分かっただけでは受かりません。そして読解や分析で得た情報を「初めて問題を見る人にも分かるように」説明しなければいけません。これは受験生時代に何度も言われてきました。もちろん指定字数に満たないのは論外です。最大字数をオーバーするのも同様です。問題の指示に従えない人は学校には不要です。多くても少なくともダメ、「過不足なく書く」ことが求められるのです。そして最重要項目は「時間内に解く」ことです。試験時間はそれぞれ45分、小学校の授業1コマ分で受験生にとっては長いと感じてしまうかもしれませんが、全ての問題が論述式なので相当時間は厳しいです。先ほども申し上げましたが、Ⅱのほとんどの問題は解答に計算を要します。45分内で計算をして詳しく文を書く、大人でも難しい試験です。上記の太字で書いたことを成せない受験生はことごとく落とされます。自分でも珍しく厳しい言葉を書いてしまいましたが、それほど都立中高一貫校の受験はハードなのです。自分が受験した2017年度は男女900人以上が募集し、そのうち合格したのはたった160人でした。バーツと簡単に書いてますが、適性検査はそんな簡単には突破できません。ではどうしたら合格に近づくことができるのでしょうか？

それは「問題をひたすら解く」ことです。年々問題に変化はあるとはいえ、求められている力は基本的に変わりません。問題をひたすら解いて、傾向と正しい答え方を掴んでいきましょう。近年の中高一貫校ブームで適性検査対策の参考書や問題集も多々出版されるようになりました。さすがに最初から過去問を解くのはきついで、問題集で型と流れを身に付けてから過去問を解きまくるのがいいでしょう。ちなみに僕は12月頃から過去問を解き始めました。過去問は志望学校に拘らず色々な学校の問題を解きましょう。どこの学校も問題の型や問われるものは近似しています。演習量は多いに越したことはありません。

そして僕が一番大事だと思うものは「やる気」です。やる気とはもちろん受験する小学生のやる気です。根性論を振りかざすつもりはありませんが、やる気がない人は絶対に受かりません。どんなに親御さんが熱心に勧めても、どんなにいい塾に行かせていいものをお膳立てしても本人のやる気が無ければそれはただの「記念受験」として水泡に帰します。本気でその学校に行きたいと思って懸命に勉強した生徒ですらふるい落とされる世界ですから、嫌々やって生半可に身に付けたスキルでは到底適うはずがありません。よく「逆転合格」とか言われますが、本気で取り組むからこそ逆転できるのです。これは高校・大学受験でも一緒です。

対策と演習で型を身に付ける。そして受験生本人がやる気を持って取り組む。これが受験態勢のキホンとなります。まだ色々と言いたいことがあるのですが・・・、今回はここまでになりそうです。「過不足なく書く」というのは実に難しいことなんですなぁ。